

予算の概要



令和8年度予算の規模

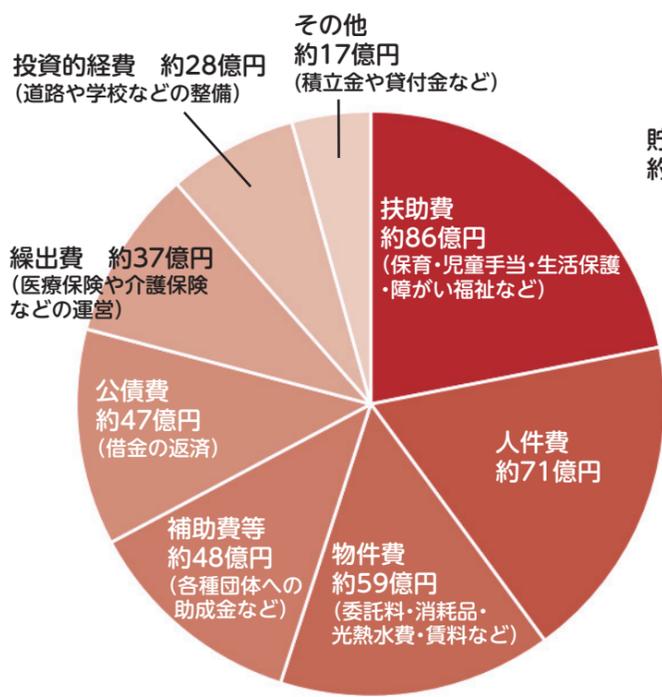
令和8年度当初予算は、一般会計が392億8,000万円、特別会計が193億6,000万円です。一般会計は令和7年度に、し尿処理施設の改修や小・中・特別支援学校のタブレット端末の更新が完了したため、前年度に比べて17億2,000万円(4.2%)の減少となります。

- 4～7ページで「令和8年度の主な事業」を紹介します。

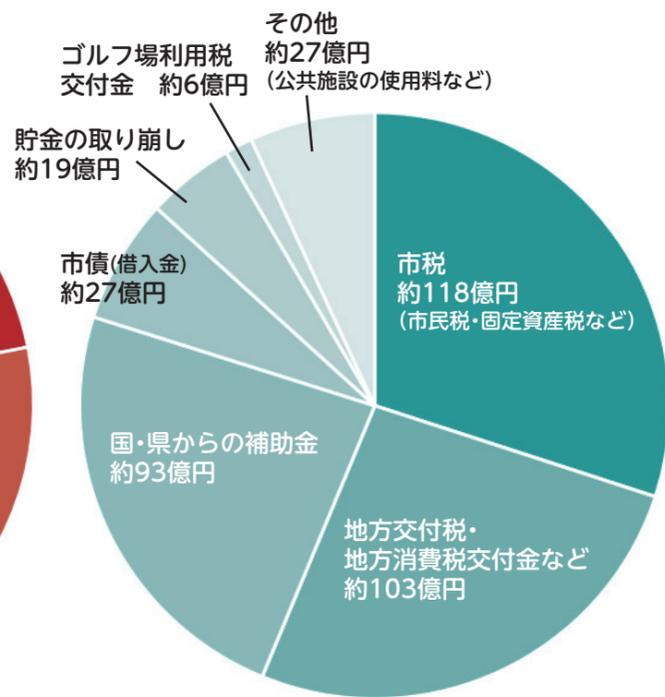
区分	令和8年度 当初予算 (A)	令和7年度 当初予算 (B)	対前年度比		
			増減額(C) (A-B)	増減率 (C/B)	
一般会計	392億8,000万円	410億円	△17億2,000万円	△4.2%	
特別会計	国民健康保険	83億8,800万円	80億6,300万円	3億2,500万円	4.0%
	介護保険	84億7,700万円	83億5,700万円	1億2,000万円	1.4%
	後期高齢者医療事業	21億4,000万円	18億1,900万円	3億2,100万円	17.6%
	学校給食事業	3億5,500万円	3億2,500万円	3,000万円	9.2%

予算の内訳(一般会計)

一般会計の歳出(約393億円)



一般会計の歳入(約393億円)



令和8年度 施政方針と予算の概要

誇りを持って暮らせるまち三木
～未来を拓く、確かな歩み～

問・(市)企画政策課・(市)財政課



▲施政方針の全文
はこちら

施政方針

2月20日に第391回三木市議会定例会を開催し、仲田一彦市長が令和8年度施政方針を発表しました。その中から重要な取組などについて紹介します。

着実に進むまちづくり

人口減少を抑制する積極的な施策として、一旦進学や就職で三木を離れても、結婚やこどもの就学を機に、三木に帰ってきたいと思える環境整備、特に働く場の確保、教育環境の整備充実が重要です。また、人口減少や少子高齢化に対応した緩やかな縮小を図るため、公共施設再配置計画と財政健全化計画の着実な実行も不可欠です。

県市の連携事業である働く場の確保のための「ひょうご情報公園都市」の整備をはじめ、吉川地域の施設一体型小中一貫校の設置、5月に供用開始予定の三木市多世代交流施設を核とした団地再生事業、(仮称)三木スマートインターチェンジ、中央公民館等複合施設、

次期ごみ処理施設の整備など、これまで進めてきた20年、30年先の将来を見据えたまちづくりを着実に前に進めます。

物価高騰対策

市民や事業者が直面している物価高騰は喫緊の課題です。4月から11月検針分までの水道基本料金の全額免除、プレミアム付きデジタルお買い物券の発行、小学校の学校給食費の無償化、中学校の学校給食費の半額支援など、きめ細やかな支援により市民生活を守ります。

地域資源の活用

本市は、NHKの大河ドラマ「豊臣兄弟」にゆかりのある「三木合戦」の舞台であり、全国から注目を集める絶好の機会です。歴史や大河ドラマのファンが三木ファンのことになっていただけるよう、さらなる地域資源の活用や魅力の発信に取り組みます。伝統の技が光る「三木金物」、質・量ともに日本一の「酒米山田錦」、西日本一のゴルフ場数を誇る「ゴルフ」、国や県

の防災施設が立地する「防災」のまち、西日本で唯一馬術の国際大会が開催できる「三木ホースランドパーク」を有する「馬術」など、本市の魅力を最大限に活用し、まちづくりに生かします。

官民連携の推進

社会情勢の変化や市民ニーズの多様化などに対応するため、行政と民間事業者がそれぞれの強みを生かし、より質の高い市民サービスの提供、まちの魅力や住民満足度の向上につなげます。先ほど掲げた「ひょうご情報公園都市」の整備、団地再生事業、中央公民館等複合施設の整備などにおいても、官民連携で推進します。

未来を拓く、確かな歩み

本年は、まちづくりの取組を着実に前に進め、まちの未来を切り拓くため、教育のまちの推進、市民が安全で安心して暮らせるまちづくり、地域の活力の向上、地域資源(三木ブランド)の魅力の向上、将来に向けた持続可能な行政運営の基盤づくりに取り組みます。